

N I Eを通じて社会を見る目を養い、生きる力を身に付ける

兵庫県立姫路飾西高等学校 校長 田中 章愛
主幹教諭 片山 一男

平成 27 年度、本校は N I E の指定を受け、朝日、神戸、産経、毎日、日本経済、読売の 6 紙について、N I E 事務局から 11 月から翌年 2 月まで 4 カ月間無料で提供を受けている。

31 回生では、11 月の月曜日から金曜日まで「コラムを読もう」と題して、毎朝、6 紙のコラムを全員に印刷して配布している。生徒は、週に一度、この中から自分の視点で、記事の一つを選び、内容に関する感想、未知の事項に対する調べ学習、気になる表現などをノートに書き出し、各担任に提出する。文章を読む習慣がついた、あるいは一つの事項について考える機会になったなどの感想を述べている。特に、「夫婦別姓」のテーマに関しては、非常に関心が高く、さまざまな意見を書いて提出した。また、4 階の廊下に長机を置き、生徒に自由に閲覧できるようにしている。新聞を読むことによって社会の動きに関心を持ち、さらに、活字を読むことに慣れるというねらいを込めている。その後、11 月 24 日には、本校において、「今後の社会に新聞の果たす役割について」と題して朝日新聞姫路支局の藤井匠記者による講演が行われ、1 年生 277 人が新聞の社会的使命、役割、また、未来像について学習を深めた。生徒からの鋭い質問や、藤井記者の回答に大いに刺激を受けることができた。

2 月には、総合的な学習の時間を用いて各クラスで班分けを行い、各班で模造紙に新聞記事を切り抜き、各自の感想、関連事項の調査を基に壁新聞を作成した。4 階の廊下に張り出し、学年全体で閲覧できるようにした。

N I E の活動全体を通して、生徒が活字に親しみ、社会の動きに関心を持ち、社会の一員としての自覚を深める良い機会となったと思われる。

以下に各活動の内容と生徒の感想を述べる。

各取り組みと生徒の感想

1. 藤井記者による講演会

<女子>

・最近、学校でも新聞をよく意識するようになりました。でも、その前は新聞よりスマホやテレビなどで見たり知ったりすることが多かったです。今回、この講演を通じて新聞って面白いなと思うようになりました。今まで、学校ではコラムだけだったけど、普段も自分から一面とか読んでいきたいと思いました。

・ケータイでニュースを知ることが多いのですが、それではよく分からないところがあることが多々あります。詳しいことを知るには、やはり新聞だと今日改めて思いました。また、各新聞社で一面を飾っている内容が違うのは面白いと思います。なかなか違う新聞を読み比べる機会はないのですが、学校にある新聞を手にとって読んでみたいと思います。

・新聞はインターネットと違い、確実性があるということがよく分かりました。なかなか今まで自分から新聞を読む機会はありませんでした。しかし、最近のNIEの取り組みを通して新聞に触れるようになりました。多くの人の頑張りがあって私たちの手に届けられる情報があるので、少しでも自分から積極的に読むべきだと思いました。今日、話されたパリ事件のことや、安保法案に関する内容は、ちょうど私が感想を書いた話だったので、自分の考えと比較しながら聞くことができました。新聞社によって意見の分かれるような、難しい問題もありますが、18歳からの選挙権を持てる私たちなので、社会の状況を、正確かつ詳しく分析された新聞で知っていきたいと思いました。また、文章力なども“慣れ”だと伺ったので、参考にしていきたいです。

<男子>

・新聞の今後の役割として、確実な情報を読者に伝える、国民の知る権利を守ることがあると言われました。僕はヤフーニュースを見るけど、新聞と比べると情報量は少し少ないかなと思いました。新聞を作っている人たちはとてもすごいなと思いました。文章を書くのが苦手な人でも練習をすれば書けるようになる聞いて、とても驚きました。また、海外支局でも英語は必要だけど、それ以外はあまりペラペラでなくてもいいと聞いてびっくりしました。



2. 閲覧可能な各紙

4階階段上り口に6紙を配置し、閲覧できるようにした。休み時間には、それぞれ新聞を読む姿が見られた。



3. 各クラス班別壁新聞作成の様子



〈新聞を配布し、協議を始めた様子〉

2月2日、9日の総合的な学習の時間を用いて、各クラス5～6人で1班を作り、新聞を開いてテーマごとに壁新聞を作成した。11月からコラムを読む取り組みを続けてきたが、新聞全体に目を通し、各記事から切り抜く作業によって改めて新聞の存在を感じることができたと思われる。テーマは、政治、経済、教育、国際、社会、環境、介護・福祉の大テーマごとに、小項目を設定し、組み合わせも可能として進めることとした。各クラスでは、班ごとに協議を進め、レイアウトも工夫しながら作業を行っていた。

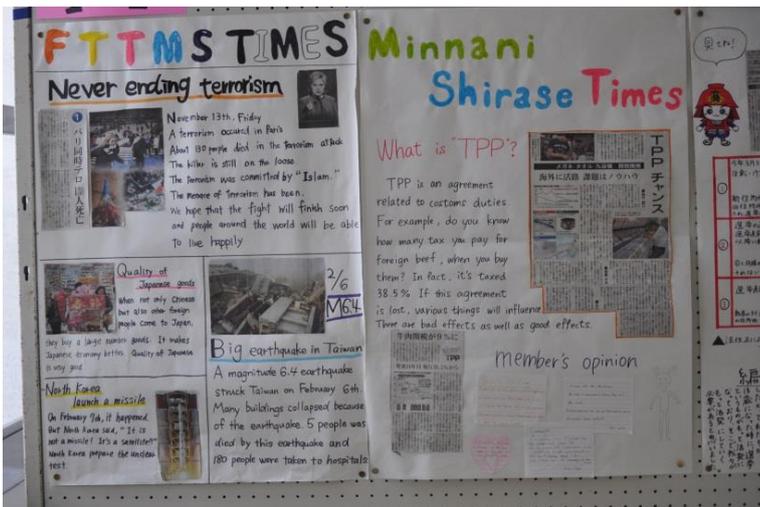
作成した壁新聞は、廊下に張り出し、学年全体で読めるよう展示した。



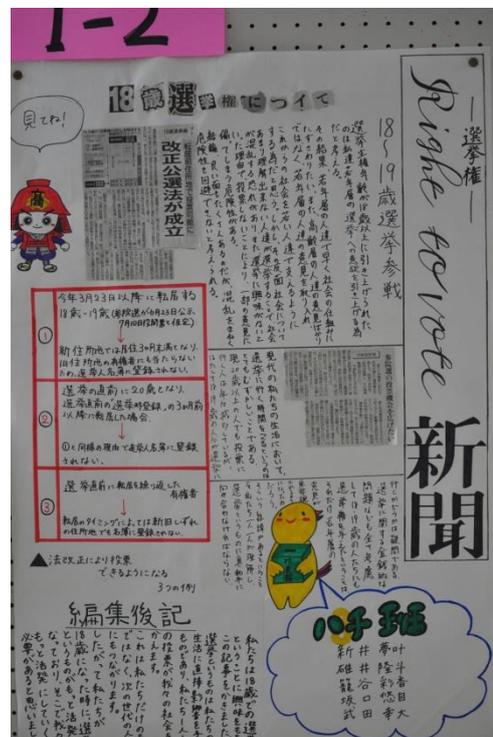
〈作成中の様子－1〉



〈作成中の様子－2〉



〈国際文化系コース生徒による英字新聞〉



〈18歳選挙権について〉



〈実際の壁新聞〉

4. まとめノートの一例

各自が「気になる表現」「感想」「意見」をノートにまとめ、提出、担任が読むという流れで進めていった。このノートは、その日の感想を自分で「感動」「疑問」「共感」などと小見出しを付けてまとめるなど、工夫が見られるものであった。

感想 <女子>

・NIEの活動を通じて、新聞というメディアの利点がよく分かりました。コラムだけでも、じっくりと時間をかけて読んでみれば、筆者の鋭い視点を持って切り取られた社会の様子がくっきりと見えてきます。気になった記事を切り抜き、保管しておけば、いつでも見直すことができ便利です。多様な情報から必要なものを選び、思いのままにカスタマイズできる、これが新聞の長所であり、面白いところだと思います。新聞を読むこと、その楽しさに気づくことができたのも、このNIEのおかげだと思います。素晴らしい活動でした。

